

# ふれあいだより

山田校区  
ふれあい協議会

## 通常総会

山田校区ふれあい協議会の平成二十年度通常総会が四月二十七日開かれ、事業計画などを審議、決定しました。以下ご紹介いたします。

## 地元で役立つ事業を工夫

ふれあい協議会は三年目に入りました。この間、地元で役立つ事業を模索してきましたが、今年度は健康福祉、生活環境、教育文化の各部会で次のような事業を計画しました。

**戸外でウォーク**  
メタボ（内臓脂肪症候群）が流行語になっています。個人努力ではなかなか改善できない面がありますが、せめて皆さんと一緒に健康ウォークといきませんか。そんな機会を作りたいと考え、また、

昨年実施し定着した健康教室をこしても計画しました。  
お年寄りの交通事故が増えています。私たちのできる対策はわずかなものですが、危険個所の看板設置・道路の凸凹の修理・暗い照明器具の交換など関係機関と協力して、改善策を実施していきたいと考えています。  
また、学校と地域の人

私たちができる対策はわずかなものですが、危険個所の看板設置・道路の凸凹の修理・暗い照明器具の交換など関係機関と協力して、改善策を実施していきたいと考えています。  
また、学校と地域の人

山田小の現状は、少子化とこ吹く風とばかり児童数が増えつつあります。  
ことし四月の児童数は五十二人ですが、今後六年間で九人増え、学級数も三学級増える見込みです。  
それに伴い、普通教室、特別教室が不足し、加えて校舎の老朽化が進み、児童の遊び場もまた狭くなっている状況

山田小関係の行事は、従来から行われている土曜日の学校開放日を中心に実施されます。

山田小の現状は、少子化とこ吹く風とばかり児童数が増えつつあります。  
ことし四月の児童数は五十二人ですが、今後六年間で九人増え、学級数も三学級増える見込みです。  
それに伴い、普通教室、特別教室が不足し、加えて校舎の老朽化が進み、児童の遊び場もまた狭くなっている状況

喜ばしいことですが、この計画に地域の要望を反映させるため、地域の有識者はじめ山田小後援会、同PTA、山田校区各自治会、同ふれあい協議会など有志の方々の賛同を得て、山田小学校教育環境整備推進委員会を五月二十日に設立することになりました。ご協力をお願いいたします。

囲碁・将棋にオセロ・ビンゴ  
山田甚句よさこい踊り出演発表  
紙芝居通した子どもたちの集い  
ゲートボール親子大会（年2回）  
山田小文化祭に一般の展示を地域の歴史文化を調査検討へ

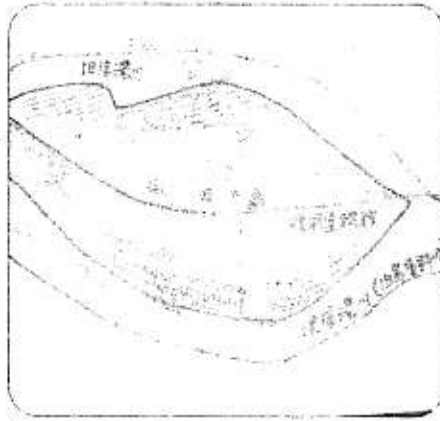
- 新役員です。よろしく**
- 顧問 菅原 勉
  - 会長 間 栄一
  - 副会長 田村 信昭
  - 青木 留蔵
  - 鷺巻 一
  - 中村 和雄
  - 内藤 和夫
  - 五十嵐 暁浩
  - 滝 秀則
  - 佐野 房雄
  - 富岡 富夫
  - 小林 肇
  - 高橋 友蔵
  - 間 勝栄
  - 理事 樺沢 和雄
  - 大橋 三三雄
  - 阿部 剛
  - 玄蕃 康弘
  - 鷺尾 篤
  - 鈴木 貞吉
  - 藤橋 雅廣
  - 川合 敏秋
  - 会計 間 薫
  - 乙川 勉
  - 池田 正雄
  - 土田 幸子
  - 監事 \*
  - \* \*
  - \* \*

## 環境整備推進委発足へ

# 山田島から黒埼へ 地域の生い立ちを探る

今の山田、善久はかつて川中島だった。鳥原にも大野にも舟でなければ行けなかった。そんな昔話を知っている人は少なくなった。そこで地域学の環として、郷土史家の宮田栄門さんからお話を聞いた。

## 信濃川大改修で 陸続きに変身



図は信濃川大改修以前の山田島

山田、善久は、かつて中蒲原郡曾野木村に属し、山田は合子ヶ作、善久は西楚川新田という村落だった。この地域は古くから山田島と呼ばれ、大河といわれた信濃川の本流と、信濃川の支流だった鳥屋野川に挟まれた川中島だった。

この大河の中心部が中蒲原、西蒲原郡の境界線で、

### 8号線沿いに企業続々

生まれ変わった国 買収したのは二十二年一月だった。内定以後、新潟日報などの農地五万坪を県 していた二井化学は 企業が続々張り付き、堤外地は現在の事業が工場誘致の目的で 地盤沈下問題で挫折 平成に入ってふるさ

したが、三十年代に と村がオーブン、帝山下家具、自動車試 石橋が平成大橋に、ときめき橋も架橋されるなど、かつての 堤外地は現在の事業所地帯に変貌した。

山田、善久は、黒埼の鳥原や寺地などは川で分断されていた。信濃川は江戸末期から上流河川の変化により水量が不足してきたが、この濁水期の洪水によって、明治十二年と十四年に柳作の堤防が破壊し、多くの家が流された。

度重なる被害を感えた人々の永年の努力が実って、明治二十九年信濃川改修工事が行われるに至った。

山田島のほぼ中央に新堤防、今の国道8号線が築かれたのである。

## 進駐軍の力で曾野木から分離

こうして山田島は島でなくなり、黒埼村と地続きになった。それまで舟でなければ行けなかった大野町や

新潟市に歩いて行けるようになったのである。しかし信濃川に橋がないため曾野木村役場に行くに

そして大河は完全に埋め立てられ、約八〇ヘクタールの農地が誕生した。一方で山田島の村落はすべて河川敷になり、新堤防内に移転を迫られることになった。記録によると、今の上山田に五戸、新しく生まれた下山田に十八戸、新堤防内の善久に八戸が移転したという。

当時のこと、何の保障もない強制的な移住で、戸数こそ少ないが、現在の数百世帯におよぶ地域の原型がここにあるといえる。

は大野から曾川への渡し舟が唯一の交通手段だった。当然、住民は黒埼に移りたいと願い、曾野木からの離村運動が起きた。大正時代、議会に対し何回となく嘆願書を出したが、一向に進展せず、昭和に入り、太平洋戦争に突入する事態になった。当時は米、砂糖はじめ日用品の多くは配給制度の対象になり、配給品はすべて曾野木村役場にもらいに行かねばならなかった。やがて戦争が終わって二十三年、新潟にも進駐軍がやってきた。進駐軍は絶対的な存在。いくら離村を請願しても実現の見込みがないので、「進駐軍に頼もう」というアイデアが生まれた。地縁のある軍政部の通訳からだった。直ちに軍政部の呼びかけで公聴会が開かれ、席上軍政部から離村を認めよう説得された。ついに議会は離村を承認し、七月一日黒埼村に編入が決まって上山田、下山田、善久が誕生したのである。